

秋季高校野球

県大会

第6日

来春の選抜大会(センバツ)につながる第75回秋季東北地区高校野球県

大会は第6日の23日、いわき市のいわきグリーンスタジアムと白河市の白河グリーンスタジアムで3回戦4試合を行い、相馬、光南、学法石川、会津北嶺が8強に進んだ。相馬は23年ぶり、会津北嶺は初の秋季県大会での8強入り。

大会は第6日の23日、いわき市のいわきグリーンスタジアムで8-5で破った。白河グリーンスタジアムでは学法石川が郡山との打ち合いを10-6で制した。会津北嶺は延長十回タイブレークの末、ふたば未来を10-5で下した。

大会第7日の24日は3回戦の残り4試合を行う。決勝は10月1日に行われ、いわきグリーンスタジアムで行う。上位3校は10月16日に秋田県で開催する東北大会に出場する。

タイブレーク制し

会津北嶺初8強

夏4強の勢いそのまま



【会津北嶺-ふたば未来】10回表、会津北嶺2死一、二塁、斎藤の左翼線二塁打で生還する二走磯川

磯川復調示す一打

会津北嶺10-5

会津北嶺は春の県大会8強、夏の福島大会4強に続いて秋の県大会でも初の8強に進んだ。終盤の8回にふたば未来に四球や暴投が絡んで2点差

を追い付かれたが、延長十回タイブレークにもつれ込む接戦を制し、快進撃を止めなかった。十回一死満塁の好機に打席に入ったのは、先発渡辺新からマウンドを離

いた磯川将虎だ。鋭い打球で右翼線を破り2点を加えると、一塁上で喜びを爆発させ、ベンチに向かって雄たけびを上げた。磯川は「最近、打撃が

不調だった。やっと打った」という。日課の素振りや羽根打ちでスイングを修正するとともに、相手投手の分析も怠らなかつた。十回の打席はスライダーに狙いを定めて初球から強振し、結果を出した。

秋の県大会で初めて臨む準々決勝では、福島大